コード No. 10191

**Anti-Human**
**Osteopontin (1B20) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

はじめに : OPN の構造は、Glu, Gln, Asp, Asn が、総アミノ酸の半数以上を占めるという特徴的なタンパク質で、中央部には、トロンビン開裂部位が存在します。そのすぐ N 末端側には、細胞接着配列である GRGDS 配列を有し、インテグリン αvβ3 (ビトロネクチン受容体)と結合を示すことが知られています。OPN は、破骨細胞の αvβ3 と結合することにより、骨吸収調節を行っている可能性があり、骨研究において注目されています。また、CD44 と結合するという報告もあり、がん転移における OPN の関与が示唆されています。また、トロンビンにより切断された OPN の N 末側の断片 (OPN N-Half) は、α4 や α9 インテグリンと接着するとの報告があり、多くの炎症性疾患などとの関連も示唆されています。

免疫抗原 : ヒト osteopontin の C 末端部分合成ペプチド (KHLKFRISHELDSASSEVN)

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 : 1B20 サブクラス : $IgG_1$

精製方法 : 抗原特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % $NaN_3$ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加（この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2～8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1～2 µg/mL にて使用可能
(ホルマリン固定、パラフィン切片：マイクロウェーブ処理(10mM クエン酸緩衝液, pH 6.0、10 分間))
: ウエスタン･ブロッティング 2 µg/mL にて使用可能

特異性 : ラット Osteopontin に強い反応性を示します
ヒト Osteoponti との反応では、免疫組織染色において赤血球に陽性反応を示します(ラットではこの反応は見られません)
ウサギ Osteopontin とは交差しますが、マウス Osteopontin とは非交差です

文献 :
1. Kon S, Maeda M, Segawa T, Hagiwara Y, Horikoshi Y, Chikuma S, Tanaka K, Rashid MM, Inobe M, Chambers AF, Uede T. Antibodies to different peptides in osteopontin reveal complexities in the various secreted forms. J Cell Biochem. 2000 Apr;77(3):487-98.

**株式会社 免疫生物研究所**
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp

000714/NK
030204/NK
110527/KK
120720/KK